



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福祉施設 新築工事	階数	5
建設地	北区新琴似2条1丁目8-29、2-66の内	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第一種住居地域	平均居住人員	25 人
建物用途	事務所・病院	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2021年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	2,742 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2022年4月1日
建築面積	1,078 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	4,375 m <sup>2</sup>	確認日	2022.04.25
		確認者	

「配慮シート」に  
外観パースを張り付けて下さい。

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%  
②建築物の取組み 79%  
③上記+②以外のオンサイト手法 79%  
④上記+オフサイト手法 79%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価  
建物全体の[BEI][BEIm]= 0.75

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3

音環境	2.9
温熱環境	2.9
光・視環境	3.1
空気質環境	4.4

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1

機能性	3.9
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	2.1

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.2

生物環境	3.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	3.9
効率的運用	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.6
汚染物質回避	3.7

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

地球温暖化への配慮	3.8
地域環境への配慮	2.7
周辺環境への配慮	2.3

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 近隣の環境に配慮した矩形状にした。利用者しやすい形状に配慮した。	<b>A 省エネルギー</b> 高断熱の建物にし、出隅入隅を極力少なくし省エネルギーに配慮した。各居室にはバルコニーを設置している。
<b>B 省資源等</b> 一般に流通している材料を多く使用し、無駄な木材の使用は極力避けた。	<b>C 緑化</b> 札幌市の条例で定められている緑化率20%以上の緑化をした。
	<b>D 雪処理</b> 道路からの誘導通路はロードヒーティングを設置している。また、雪の堆積場所となるスペースがある。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0						
(仮称)福祉施設 新築工事		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)						
スコアシート		実施設計段階		欄に数値またはコメントを記入				
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				3.0	0.15	2.8	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音				4.1	0.40	3.5	0.40	
1 開口部遮音性能			遮音性能T-2のサッシを使用	3.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能			メーカーカタログにて予測。	5.0	0.60	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			コンクリートスラブによる。		-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			コンクリートスラブによる。		-	2.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				2.7	0.35	3.1	1.00	2.9
2.1 室温制御				3.3	0.50	4.1	0.50	
1 室温			冬季24℃、夏季24℃の室温を実現することが可能な設備内容が確保されている。	3.0	0.38	5.0	0.57	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性			空調システムは個別パッケージシステムとする。	4.0	0.38		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				2.5	0.25	3.8	1.00	3.1
3.1 昼光利用				2.4	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率			1階食堂 1.3%	2.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口					-	3.0	-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ		各室にブラインド設置	2.0	1.00	4.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度			食堂800LX、居室300LX以上	3.0	0.15	4.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				4.4	0.25	4.5	1.00	4.4
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質			すべて規制外の建材を使用。	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量			35m <sup>3</sup> /h 人以上の換気量を確保	3.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	0.00	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				5.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-		-	
2 喫煙の制御			館内は全館禁煙とする。禁煙看板設置	5.0	1.00		-	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.1
<b>1 機能性</b>			<b>3.5</b>	0.40	<b>4.4</b>	1.00	<b>3.9</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>2.9</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性	個室10㎡/人 とする。	1.0	0.00	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応		1.0	0.00	3.0	-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	天井高さは2.500とする	3.0	0.00	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース	執務スペースの談話コーナー 食堂を設置	5.0	0.00		-	
3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>5.0</b>	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	清掃に配慮した材料を選定した。	5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	清掃に必要なボックススペースを確保した。	5.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.9</b>	0.30		-	<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.8</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.6</b>	0.30	<b>1.7</b>	1.00	<b>2.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.4</b>	0.30	<b>1.4</b>	0.50	
1 階高のゆとり			2.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		居室の縦横比0.55	3.0	0.40	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		構造部材を痛めることなく修繕、更新が出来る。	4.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	<b>緑化</b>		<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	<b>緑化</b>	札幌市の緑の条例以上の緑化をする	<b>4.0</b>	0.40		-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30		-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	<b>雷処理</b>		<b>3.0</b>	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-		-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	<b>省エネ</b>	北国の温熱環境に配慮した外装デザインにより高水準の外皮性能を確保した。	<b>5.0</b>	0.20		-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	<b>省エネ</b>		<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	<b>省エネ</b>	[BEI][BEIm] = 0.75 -	<b>3.9</b>	0.50		-	<b>3.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>			-		-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.6</b>	0.60		-	<b>2.6</b>
2.1 材料使用量の削減	<b>省資源</b>		3.0	0.13		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	<b>省資源</b>		-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>		3.0	0.25		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>		1.0	0.25		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	<b>省資源</b>		2.0	0.13		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	<b>省資源</b>	躯体と仕上げ材を容易に分別できるように取り組んだ。	4.0	0.25		-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODPに配慮した発砲ウレタンを使用。	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	省資源	CO2量を算出	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>	省資源		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>	省資源 悪化 管理		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>4.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車場出入口を交差点から離れた位置に設置。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 管理	廃棄物保管庫の設置	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>2.3</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.3	BEEランク	B <sup>+</sup>
建物名称	(仮称)福祉施設 新築工事				
建物用途	事務所・病院				
延床面積	4,375.3 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理 省資源等への取組 緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★☆	

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.1 最低点 6.6 )				<b>合計</b>	<b>17.0点</b> /23.1点
Q1 温熱環境	スコア	0.6	/1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0	/2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 /2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア 7.8 /10.0
				LR1 効率的運用	スコア 2.4 /4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.7 最低点 7.5 )				<b>合計</b>	<b>14.0点</b> /23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.7 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.7 /1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.8 /5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア 2.3 /4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )				<b>合計</b>	<b>9.4点</b> /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8	/6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3		
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )				<b>合計</b>	<b>2.0点</b> /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数